

経営比較分析表（令和6年度決算）

静岡県 河津町

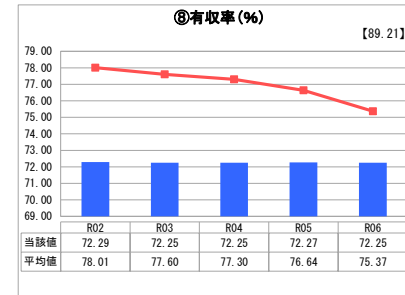
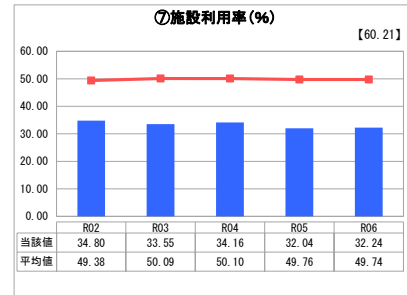
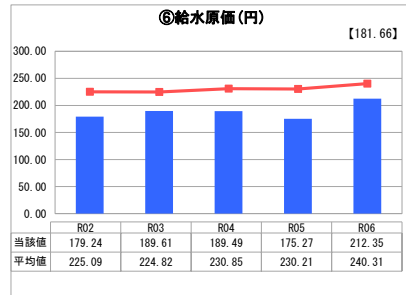
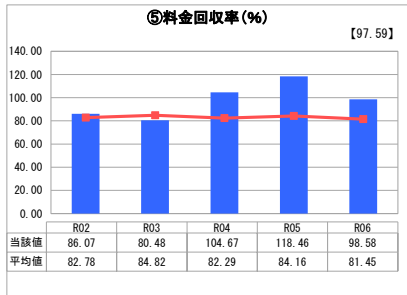
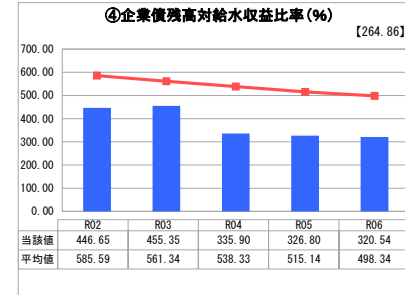
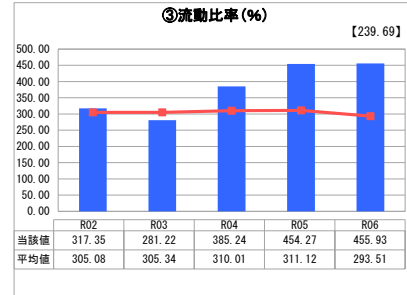
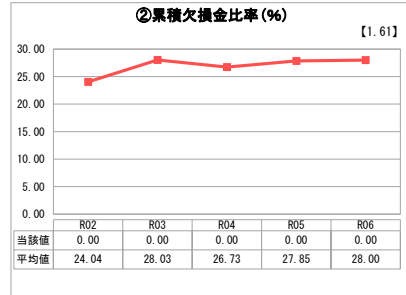
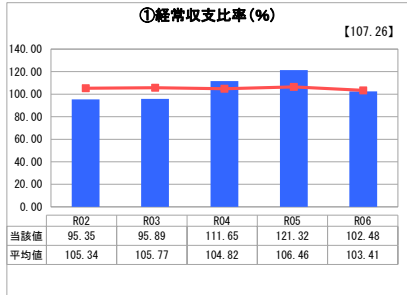
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A8	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家産料金(円)	
-	58.71	95.17	3,520	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
6,398	100.69	63.54
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
5,996	18.16	330.18

グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 令和6年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

「①経常収支比率」は、令和4年度の料金改正によりプラスに転じているが、人件費や物価上昇等これからの施設更新や耐震化を進める上では、やはり将来的に料金改正は必須であるため、支出抑制に努めなければならぬ状況に変わりはない。

「③流動比率」も料金改正が増加要因であり、起債借入額の減少も関係している。しかしこれから配水池等の更新事業を控え、借入額の増加が見込まれ比率の低下が予測される。このため「④企業債残高対給水収益比率」も上昇するものと思われる。

「⑤料金回収率」は物価上昇による支出控等の影響で未納件数が増加したため100%を下回る値となった。

「⑥給水原価」においても物価上昇の影響を受けた経常費用の増加等により、これまでよりも高い数値となり、人件費等も考慮すると更なる増加が見込まれる。

「⑦施設利用率」は給水人口は減少しており、能力過多の状況であるが、現在給水計画の変更予定も無いので、同様に推移していくものと予測される。

「⑧有収率」については、日常の点検やビックデータを用いての水量の比較等により漏水個所の特定・改善に努めており、また計量法に則り定期的な量水器の交換作業の実施により、有収率の向上を目指している。

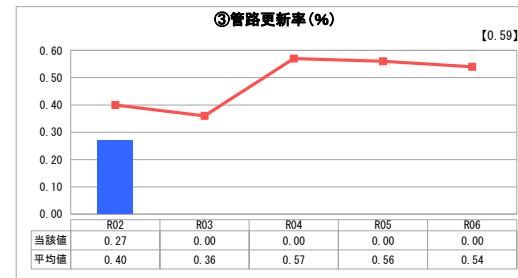
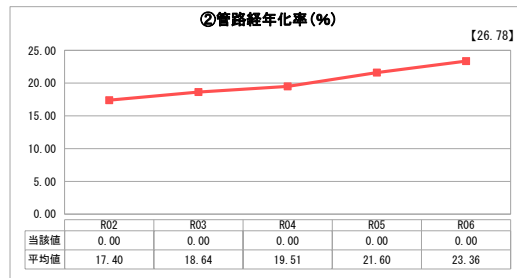
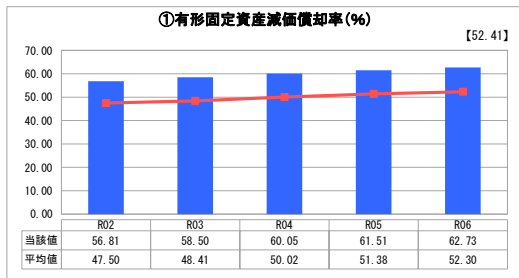
2. 老朽化の状況について

「①有形固定資産減価償却率」の数値は年々上昇している。

「②管路経年化率」及び「③管路更新率」についても耐震化等水道管の更新は進んでおらず、今後耐用年数を経過した管路の増加による経年化率の悪化で、更新率も改善は見込まれない。

有収率の低さから、見えない部分での漏水が要因でもあると考えられるため、耐震化を含めた施設更新の実施が望まれるが、更新策定する経営戦略では老朽化施設の更新・耐震化は最重要課題の部分であり、更新に当たっての財政見直しも含め検討し、計画を進めていかなければならない。

2. 老朽化の状況



全体総括

当面の収益状況では、令和4年度の料金改正から収益は増加となったが、今後も物価上昇による支出増加と水道の使用控え等、収益減少となる要因も多く懸念されることである。

また今後も人口減少が予測される中で、施設更新費用の増加に伴う収益の確保に努めるためには、料金改正も視野に入れた無駄のない事業の実施に努めていきたい。